

本資料は、報道関係者を対象としています。医療現場や一般の方々を対象とした医学的な情報提供や、プロモーションが目的のものではありません。なお、これらの資料は配信時当初の情報が掲載されており、最新の情報が反映されているとは限らないことをご了承ください。

報道関係各位

2026 年 7 月 21 日

過多月経を通じて知る女性の血友病 -7-2-1 のサインをきっかけに理解促進を目指して-

サノフィ株式会社（所在地：東京都新宿区、以下「サノフィ」）は、過多月経に気づくサインとして知られる「7-2-1」にちなんだ 7 月 21 日を前に、血友病における女性患者への理解促進を目的とした啓発セミナー「過多月経を通じて知る、女性の血友病」を 2026 年 6 月 29 日に開催しました。セミナーには現地 58 名、オンライン 113 名の計 171 名のサノフィ社員が参加しました。

サノフィは、血友病、ITP（免疫性血小板減少症）、後天性 TTP（後天性血栓性血小板減少性紫斑病）など、血栓・止血分野の希少疾患を対象とする医薬品事業を展開しています。製薬企業として、医薬品や治療に関する情報だけでなく、疾患への理解促進や患者さんを取り巻く社会課題の解決に貢献することも、社会的責任を果たしていく上での重要な役割と考えています。本セミナーはその一環として企画しました。

今回のセミナーでは、男性患者が約 9 割を占めることから長らく「女性患者はいない」と認識されてきた血友病について、東京医科大学 臨床検査医学分野 教授の天野景裕先生および関西医科大学附属病院 血液腫瘍内科 診療講師の長尾梓先生より、女性の血友病患者や保因者が直面する課題や、過多月経と出血性疾患との関連について講演いただきました。参加者は、女性も血友病を発症し得ることや、過多月経などの出血症状があっても血友病との関連に気づかれにくいという課題について理解を深めるとともに、妊娠・出産などのライフイベントに備えるためにも、早期診断と適切な治療が重要であることを学びました。

<当日の様子および登壇者 3 名（写真右より長尾梓先生、上村理絵様、天野景裕先生）>



「7-2-1」が、出血性疾患の保因者にみられる傾向にある“過多月経”に気づくサイン

また、本セミナーでは、北海道ヘモフィリア友の会 理事で血友病保因者の上村理絵さんにもご登壇いただき、ご自身の経験や女性当事者へのアンケートをもとに、過多月経をはじめとする出血症状が日常生活や QOL に

及ぼす影響についてお話いただきました。あわせて、人工経血を用いた月経過多体験や生理痛の疑似体験プログラムも実施しました。

女性患者や保因者にみられる出血症状のひとつに過多月経が知られています。過多月経をはじめとする女性の出血症状は、本人にも周囲にも認識されにくく、日常生活や QOL に影響を及ぼす一方、「体質だから」「よくあることだから」と見過ごされることも少なくありません。海外では、7 日以上続く月経、2 時間以内にナプキンやタンポンの交換が必要になる、1 インチ(2.5cm)以上の大きな血の塊がみられるといった「7-2-1」というキーフレーズが、過多月経に気づくサインとして用いられており**、参加者はこうした症状が日常生活や QOL に及ぼす影響を体感し、見過ごされやすい健康課題への理解を深めました。

<生理痛体験プログラムに参加する社員の様子>



セミナー後に参加社員向けに実施したアンケートでは、満足度は 100% (「非常に満足」72%、「満足」28%)となりました。また、参加者全員が女性の血友病に対して「理解が深まった」と回答し、そのうち 72%が「大いに深まった」、28%が「深まった」と回答しました。印象に残った内容としては、「血友病が男性だけの病気ではないという事実」(18 名)、「当事者の実体験や声」(18 名)、「女性が症状に気づきにくい構造的な理由」(17 名)が上位に挙げられました。また、セミナーで得た知識の活用方法として、参加者の多くが「家族や友人との会話で共有したい」「職場の同僚と共有したい」と回答しており、セミナーで得た学びを身近な人にも伝えていきたいと感じていることがうかがえました。参加社員からは「見えにくい負担に対して、男性である自分に何ができるのか当事者に近い視点で考えるきっかけになった」「女性の血友病や過多月経に関する課題がどのように啓発されているのかさらに学びたいと興味を持った」といった声も寄せられ、女性の血友病や過多月経について、新たな気づきを得る機会になったと考えられます。

サノフィ株式会社スペシャルティケアビジネスユニット希少血液疾患フランチイズヘッド 富永重人コメント
血友病をはじめとする希少血液疾患に携わる企業として、私たちは医薬品をお届けするだけでなく、疾患に関わる社会課題に光をあて、様々なステークホルダーとの連携を通じてその理解と解決に貢献することも重要な社会貢献だと考えています。今回の取り組みもその一環で、本セミナーのテーマである過多月経は、本人以外からは見えにくく、語られる機会も限られている健康課題です。私たちは今後も、女性患者さんや保因者の方々が抱える健康課題に光を当て、疾患理解の向上に向けた啓発活動や情報発信を継続してまいります。

■開催概要

日 時:2026 年 6 月 29 日(月) 14:00~15:10

会 場:サノフィ株式会社 本社オフィス

登壇者 :天野 景裕先生(東京医科大学 臨床検査医学分野 教授)

長尾 梓先生(関西医科大学附属病院 血液腫瘍内科 診療講師)

上村 理絵さん(北海道ヘモフィリア友の会 理事 血友病保因者)

■参考:国内外で意識が高まり始めた“女性の”血友病

血友病は長年にわたり男性の疾患として認識されてきましたが、近年では女性患者・保因者の方々においても、過多月経や出産時の大量出血など、様々な症状がみられることが分かっています。「血友病は男性の病気」という認識から診断や適切な医療介入につながらないケースもあり、症状が見過ごされてしまうことも多く、その認知向上が重要な課題となっています。こうした背景から、世界血友病連盟(WFH)でも近年、女性と出血性疾患への認知向上をグローバルな課題として掲げており、2025 年の世界血友病デーでは「Access for All:Women and Girls Bleed Too(すべての人にアクセスを:女性・女児も出血する)」をテーマに啓発活動を展

開しています。日本でも血友病患者の 97.5%を男性が占める*中で、女性の血友病患者に対する適切なケアや医療介入の重要性が提唱されるようになっていきます。

*公益財団法人エイズ予防財団「令和 6 年度血液凝固異常症全国調査報告書」

** [7-2-1 Podcast | Foundation for Women & Girls with Blood Disorders](#)

サノフィについて

サノフィは、研究開発型の AI を活用したバイオ医薬品企業であり、人々の暮らしをより良くし、力強い成長をもたらすことに尽力しています。免疫科学領域の深い知見を活かし、世界中の何百万人もの人々の治療と予防を行う医薬品やワクチンを提供し、さらなる貢献のために革新的なパイプラインの構築にも注力しています。「人々の暮らしをより良くするため、科学のもたらす奇跡を追求する」という使命のもと、医療・環境・社会が抱える課題に真摯に向き合い、社員と国や地域社会にとって前向きな変化を生み出すことを目指しています。

サノフィは、ユーロネクスト(EURONEXT: SAN)とナスダック(NASDAQ: SNY)に上場しています。

日本法人であるサノフィ株式会社の詳細は、<https://www.sanofi.co.jp/> をご参照ください。